

潮流

学部の高塚人志准教授の新著『赤ちゃん力』人との関わりが人を育む』が出版された。ヒューマン・コミュニケーショーンの一環として、赤ちゃんとの触れ合いを通して気づきの体験学習を続けてこられた高塚先生の取り組みが、鳥取発で全国に広まっている。

私たち「子育て支援ネット」も、二〇〇七年から県の職員互助会の助成を受け、希望する学校に

2009. 3. 21.

子育て支援アドバイザー

松本寿栄子

「赤ちゃんととのふれあい解、協力で〇七、〇八年教室」を提供。〇五年以降は私も講師として小、中、高校でふれあい体験授業を行ってきた。いざんや。校長いわく「継続年間五回、一学期から三年間で継続して取り組むことでも行政など関係機関の協力で実現した。ることも意味深い」と。

「赤ちゃんとのふれあい教室」には次の意義がある。①児童生徒は、「命の大切さ」「感謝の心」義務教育から巣立つ前の体験として考慮された。教室では、あいさつや自己紹介、よく見て、聞く

立ち、赤ちゃんのパワー 小学校でも〇七、〇八年に顔つきも穏やかになつと継続で五年生を対象にしていく。親から離れて大行つた。一年目の「子育泣きした赤ちゃんが、再支援ネット」提供の経

ことがうれしくて、どん
なことが大変か」を赤ち
やんの親に質問してもら
つたりもする。
一年間の成長ぶりには
驚く。緊張や照れで最初
は生徒たちに親しみを持
ち、卒業式にお礼とはな
むけのメッセージを手紙
にする。

参観日とあって児童の保護者は、わが子の「こんなにやさしい顔を見るのは久しぶり」「小さい時を思い出し、子育ての原点に返った」など、赤らみした顔で会うつづく

参加者すべてに気づきの体験

「コミュニケーション能
力」などを得る②親は、あやすなどの講義と実践
「生まれてきてくれてあ
りがたい、生きているだ
けでいい」と子育ての原
点と未来に触れる③赤ち
ゃんは、「すべての人た
ちから愛される」体験を
する。」

く、触れる、声を掛け、び親の元に手渡されると 実施。参観日を利用した
泣きやむ。生徒は親の苦 実践である。
で「コミュニケーションの 労や偉大さに気づく。
原点を体験してもらう。 親はわが子が手元に戻 様に気づきがある中で、
生徒には、まだ話せな り泣きやむと、よりいと より素直にうれしさや優
い赤ちゃんを理解するた おしくなり、生徒たちの しさを表現できる。「お
めには「きれいな言葉で 姿を見てわが子の将来も 母さんに感謝」「自分も
自分から話さなければコ 予想できる。赤ちゃんも あんなに小さくてかわい
い時があつたのだ」「命

大山中学校では大山町 ないし、反応もない」こ せる。いろんな人に愛さ を大切にし 教委と学校の熱意と理 とを話したり、「どんな れる体験をすることにな 実感できる

参観日とあって児童の一年間の交流で親たち保護者は、わが子の「こは生徒たちに親しみを持ったんにやさしい顔を見るち、卒業式にお礼とはなのは久しぶり」「小さいむけのメッセージを手紙にする。

一方、米子市の福生東小学校でも〇七、〇八年と継続で五年生を対象に行つた。一年目の「子育て支援ネット」提供の経験をもとに、二年目は学校側の積極的取り組みで実施。参観日を利用した実践である。

児童たちは中学生と同様に気づきがある中で、より素直にうれしさや優しさを表現できる。「お母さんに感謝」「自分もあんなに小さくてかわいい時があったのだ」「命を大切にしたい」などを

の体験

ちゃんと触れ合うわが子へのいとおしさを語る。学校での体験にはもう一つ重要な要素が含まれる。日ごろ突っ張る級友が赤ちゃんと接して顔つきや言葉が優しくなり、新しい発見をして友達への見方が変わる。

人間関係が希薄な現代社会だからこそ、赤ちゃん授業にかかるたびに「命の大切さ」や「人と のコミュニケーションの原点」を学ぶことが必要だと強く思う。赤ちゃんとパワーに感謝。次回は「しつけと自尊心」についてママたちの悩みに応じる。